

Close-up Interview (11月号 表紙の顔)

鶴井 亜南

ANAMI TSURUI

好スタートの推進力は“伴侶パワー”!?

「去年ぐらいから**気持ち**が落ち着いて、
少しは**プロ**らしくなったかな、と(笑)」

プロ6年目、25歳のサウスポー・鶴井亜南プロ。今年8月、自身のSNS上で一般男性との入籍を報告し、ファン・関係者を驚かせたことは記憶に新しい。生涯の伴侶を得たことが力になったか、レギュラーツアー再開初戦の六甲クイーンズでは2年ぶりにTV決勝進出を果たして3位入賞。翌日のクリスタルカップでも決勝トーナメントまで勝ち進んで総合19位と好スタートを切り、今後に期待を膨らませた。

(PHOTO: 馬場高志)



今より活発だった少女時代

——**ボウリングの入り口はP★リーグだったそうですね。**

鶴井 はい。小学校5年生のとき、友だちとたまに遊びでボウリングをしていたのですが、あるときモニター(スコアビジョン)にP★リーグの番組が流れていたのを見て「私もここに出たいな」と、子どもながらに憧れて(笑)。ボウリング場にはきれいなボールがたくさん飾ってあったので、親にねだって買ってもらったのが始まりです。

——**ご両親はボウラーですか？**

鶴井 まったく違います。小さいころ、柔道のクラブに2年間通っていて、普通の女の子よりは腕っぴしに自信があったので、ボウリングも本気でやたらうまくなるんじゃないかと。ハウスボールでもたまに190とか200を出していましたから(笑)。

——**それはすごい！ 体育の成績もよかったですよ。**

鶴井 すごくよかったです。当時は今よりずっと活発で、柔道のほかにもバレーボールやクラシックバレエを習ったり、2年くらい劇団に在籍していたこともあります。

——**ボウリングはどこで？**

鶴井 中学1年のときに、地元の新潟県でJBCに入会しました。中3のときに千葉国体、高校2年で岐阜国体、3年で東京国体と、国体には3回出場しています。全国高校選手権でも入賞したり、ジュニアの強化選手にも選ばれていました。

——**プロになろうと思ったのはいつごろですか？**

鶴井 高校を卒業するころに、ちょうどP★リーグの第2回オーディション(次世代P★リーガー発掘プロジェクト)があったので、「これに合格したらプロテストを受けて、落ちた

らプロは諦めよう」と、自分で勝手に決めていました。本格的に始めたきっかけがP★リーグだったので、そこで落ちるくらいだったら生涯アマチュアとしてボウリングを楽しもうと。大学も決まっていたから。

——**47期のプロテストに一発合格する前に、P★リーグ入りが決まっていたんですね。**

鶴井 はい。同期では寺下智香プロ、前屋留美プロ、浦麻紗実プロも同じP★リーグのオーディション合格組です。



▲「女子としてはボールスピードもあってパワフルなほうだと思います。それをいかにスコアアップにつなげていくかが課題」と鶴井プロ。多少引っぱり癖があり、試合中に指を痛めてしまうこともあるという

シードの重圧に心折れた

——**プロ入り後は、2年目の2015年シーズンに千葉オープン4位、東海オープン準優勝でポイントランキング15位。早くも第1シード入りしましたが、翌16年は振るわずに、1年で陥落してしまいました。**

鶴井 その年は右ヒザをケガしてしまっただけのことなんですけど、シードプロになったことでいろいろなプレッシャーを感じるようになってしまって…。もともとそんなに気持ちも体も強いほうではないので、何かある

とすぐに心折れてしまう。大会の途中でブラインドしてしまったことも何回かあります。突然高熱が出て起きられなくなったり、宿泊先のホテルから救急車で病院に運ばれたこともありました(苦笑)。

——**そうだったんですか。**

鶴井 でも、去年ぐらいから気持ちも落ち着いて、結果が悪くてもしっかり最後まで投げ切れるようになりました。自分でも「少しはプロらしくなったかな」と(笑)。成績的にはその前の2年のほうが多少いいのですが、会場入りした途端に高熱や湿疹が出たりしていましたから。

——**気持ちが落ち着くようになったのは、何かきっかけが？**

鶴井 去年の初めごろ、中学時代から仲よしの本橋優美プロ(51期)の紹介で主人と出会って、付き合い始めたことですね。そこから落ち着いて試合に臨めるようになりました。主人はプロではないけれど、JBCのアマチュアボウラーで国体の出場選手なんです。

——**8月に入籍されたばかりでしたね。やはりこのコロナ禍が結婚を早めた？**

鶴井 いえ。自分の誕生日(8月7日)に入籍したのですが、それは1年前から二人で決めていたことで、まさかこんな年になるとは思わなかったです(苦笑)。今年になって結婚されたプロが多いことにもビックリしました。

——**ご両親、とくにお父さんは、娘がこんなに早く嫁いでしまって寂しがっているのでは？**

鶴井 そうですね。私自身、こんなに早くするとは思っていませんでした。

——**男性ファンは少し減ってしまってもいいかも。**

鶴井 そういえば、SNSで入籍を報告したときに「もうファ

ン辞めます」というコメントがけっこうあって、ちょっとグサツきたんですけど、しょうがないですね(苦笑)。

——**コロナ自粛の期間は どう送られていました？**

鶴井 体が鈍ってしまっただけなので、自宅でもできる筋トレやストレッチをしたり、飽きてきたら外でバドミントンをやったりして、とにかく体を動かすようにしていました。主人とは入籍前から一緒に暮らしていたので、気持ちも安定していましたね。

——**話は逸れますが、巷の噂では“歴女”にして“ブ女子”でもあるとか。**

鶴井 そうなんです(笑)。2年前ぐらいから新日本プロレスにハマっていて、コロナの前はけっこう頻りに会場まで観に行っていました。じつは私のインスタをフォローして下さっている選手もいて、うれしいですね。歴史は小さいころから好きで、今でもたまに歴史書や歴史小説を読んでいます。もともと多趣味で、カラオケにも行くし、マイダーツも持ってます(笑)。

“6度目の正直”で優勝を

——**レギュラーツアーが再開して、六甲での2戦は3位、19位と好調なスタートを切りました。今季は来季と連結した長いシーズンになりますが、当然シードプロ返り咲きは目標になりますよね。**

鶴井 それも、諸事情あって少し出場試合を減らさなければいけない可能性もあるので、そうになったらシードは難しいかも。なので一つひとつ出られる試合で頑張って、常に優勝を意識しながらやっというと思っています。

——**47期のタイトルホルダーは寺下プロひとり。続きたい気**

持ちは大きいでしょう？

鶴井 そうですね。私もこれまで5回、TV決勝に残ってチャンスはあったのですが、今回の六甲のように、焦りや緊張で投げミスして負けてしまうことが多かった。次にTV決勝に残ったときは同じ失敗を繰り返さないように、“6度目の正直”で優勝したいですね。応援して下さい。結果を出して恩返ししたいという気持ちは常に持っています。

——**プライベートでの夢は？**

鶴井 私はひとりっ子なので、子どもさんの家族に憧れます。そして、自分の子どもにもボウリングをやってほしいと思います。プロになってほしいのではなく、家族で楽しくボウリングができればいいな、と。私自身、お母さんになっても試合には出続けたいです(笑)。

取材協力:ウニクスボウル南古谷店

鶴井プロと一緒に投げよう！ 近日開催のチャレンジマッチ

●11月15日
愛知・コロナキャットボウル中川店

●11月16日
静岡・柿田川パークレーンズ

●11月23日
埼玉・ニューパールレーン武里

●11月29日
東京・アイビーボウル向島

●11月30日
ラウンドワンLIVEチャレンジ
東京・府中本町駅前店(配信店舗)



つるい・あなみ / 1995年8月7日生まれ、栃木県出身。162cm 51kg、左投げ。血液型O。2014年プロ入り(47期/ライセンスNo.513)。昨年度ポイントランキング41位、アベレージ203.86。P★League優勝2回。アイキョーボウル/ABS所属。